



事例5

5歳児	9月下旬	運動遊びにトライ！チャレンジ！ ～自分で決めた目標に向かって繰り返し挑戦する～
活動選択の理由	1学期からなわ跳びや鉄棒、雲梯等の運動遊びに関心をもち、やってみようとする姿が見られていた。一方で、上手くできないとすぐに諦めてやめようとする幼児や、自分から運動遊びに取り組むことが少ない幼児もいた。一人一人が、「こんなふうになりたい。」と目標を決めることで、運動遊びへの意欲や挑戦する気持ちにつながっていきたいと考えた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で決めた目標に向けて挑戦し、できるようになる喜びを味わう。 ・ うれしい、楽しい、悔しいなど、様々な感情体験をしながら繰り返し挑戦する。 ・ 友達同士で互いの姿に目を向け、応援したり励ましたりして、友達の気持ちに共感する。 	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協協同(協働)的な活動 言言語活動】</p> <p>主・「できるようになりたい。」という思いをもって、自分の課題に進んで取り組む。</p> <p>協・同じ場で、友達のチャレンジする姿に関心をもち見たり、応援したりする。</p> <p>言・友達の取組を見て、やり方のコツを知らせたり、数を数えたりする。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<ul style="list-style-type: none"> ・雲梯、鉄棒、なわ跳び、足漕ぎ、フラフープ、棒跳びの中から、自分でチャレンジしたいものを選び、具体的な目標を考えて、吹き出し型のカードに保育者と一緒に書いていく。 (目標の例：雲梯を後ろ向きに進む、なわ跳びの前跳びを20回跳ぶ等) ・目標を意識して、繰り返し挑戦する。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が挑戦する姿に「がんばれ。」「あと少し！」と応援したり、できたときには一緒に喜んだりする。 ・友達が上手くできないときには、言葉や動きでコツを知らせる幼児もいる。 	<p>★一人一人の書いた目標を顔写真の付いたボードに貼っておき、自分の目標を確認したり、友達の目標を知ったりできるようにする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○人と比べることではなく、自分の頑張る目標であることを場や機会を捉えて伝えていく。</p> <p>★目標を達成できた際には、個人の吹き出しに「おめでとうシール」を貼り、できた達成感を感じられるようにする。</p> <p>★雲梯は、保育室の壁沿いに常時設置しておき、いつでも取り組めるようにしておく。その他の運動遊具も、いつでもできるように幼児が自分たちで出し入れできる場に置いておく。</p> <p>○一人一人の取組を把握し、動きの様子に合わせてやり方やコツを知らせていく。</p>

- ・自分で決めた目標を達成すると「次はこんなことを頑張りたい。」と新たな目標をカードに書いて、取り組む。
- ・目標に向けて取り組むだけでなく、様々な試しをするようになり、鉄棒で「足を上げて制止する」「ぶら下がってジャンプする」等、自分で動きを考えたり技の名前を付けたりする。



- ・友達が新たな遊び方をしている様子を見て、「私もやってみたい。」とまねしてやってみる。
- ・友達と手をつないで足漕ぎを漕いだり、大なわ跳びで数人の友達と一緒に跳び、何回跳べるか数えたりなど、友達と誘い合って一緒に挑戦する。



- ・降園時の振り返りの中で、自分が挑戦したことや、友達の頑張っていた様子を伝え合う。

○友達同士で教え合ったり、励まし合ったりしている姿を言葉にして認め、友達と気持ちのつながりを感じられるようにする。

○目標を決める際には、一人一人の実態に応じた無理のない目標を立てられるように、必要に応じて助言していく。

○繰り返しやってみようとする姿を励まし、少しずつできるようになっていると感じられるように、「(雲梯で)前は2本目までだったけど、5本目までできたね。」「(なわ跳びで)なわの回し方が上手くなったね。」等、以前の様子と比較しながら具体的に認めていく。

○自分で動きを考えたり、様々な動きを試したりしている姿を「その技すごいね。」「面白いことを考えたね。」と認め、自分で動きを考える面白さに共感していく。

★友達の取組の姿が互いに見える環境になるように、状況に応じて場を移動することを提案していく。

○友達と一緒に挑戦する中で、息を合わせて動く感覚をつかめるように、掛け声の掛け方を知らせ、保育者も一緒に言葉を掛けていく。

○振り返りの中で、一人一人が取り組んでいた様子や、友達と教え合っていた様子、友達と一緒に挑戦していたことなどを伝え合えるように投げ掛けたり、幼児の言葉を補足したりして、友達の話を理解して聞けるようにしていく。また、次への意欲につながるようにする。

その後の活動

- ・運動遊びの「トライ！チャレンジ！」に継続的に取り組み、様々な目標を立てて挑戦していた。
- ・挑戦してきたことを運動会で発表することに決めると、運動会に向けてさらに意欲が高まった。
- ・運動会では、自信をもってできるようになったことや、挑戦中のことなど、自分が挑戦する種目を数種類選んで行えるようにした。頑張ってきたことを運動会で発表し、保護者に見てもらったり、拍手をもらったりしたことが、やり遂げた満足感や自信につながった。

生活：生活に必要なことを自分から進めたり、いろいろな運動や活動に参加したりする。
人とのかかわり：自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを受け止めたりしようとする。
学び：目的をもって遊びを考えたり工夫したりして、やり遂げた満足感を味わう。

1 一人一人が自分の力を伸ばしていく

すぐに諦めず、繰り返し挑戦する意欲をもてるようにするための工夫

- ・ 目標を決める際には、一人一人の実態に合った無理のない目標を立てられるように、助言をしていく。いきなり高い目標ではなく、スモールステップで少しずつ目標を達成できるように配慮する。
- ・ やり方やコツを知らせたり、はじめのうちは保育者が補助をしたりすることで、できた感覚をつかめるようにする。
- ・ 一緒に回数を数えたり、動きのリズムを取りやすいように掛け声を掛けたりする。
- ・ 繰り返しやってみようとする姿を励まし、少しずつできるようになっていることを感じられるように、具体的な言葉にして伝える。
- ・ 「前は○回で止まってたけれど、今は△回までになったね。」「前より足が上がるね。」など、個々の幼児の変容を伝え、その幼児としての達成感を味わえるようにする。
- ・ 自分で様々な動きを試したり、新しい動きを考えて名前を付けたりすることを共に楽しむようにして、幼児が様々なことに挑戦する意欲につなげる。



2 友達の頑張りに気づき、応援したり認め合ったりする

友達のことを自分事として応援したり、つながりを感じたりするための工夫

- ・ 一人一人の目標を掲示したり、取組の姿を学級の中で取り上げて話したりすることで、友達の頑張っていること、うまくいなくて困っていることなどを知り、友達のことを自分事として考えたり、応援する気持ちをもったりできるようにする。
- ・ 友達が取り組んでいる姿が見えやすいように、それぞれの用具の場所や順番を待つ位置など、場の設定に配慮する。
- ・ 友達同士で教え合ったり励まし合ったりしている際には、保育者はあえて距離をおいて見守り、自分たちで言葉を掛け合って取り組む姿を大切にしていく。
- ・ 振り返りのときには、友達同士で教え合っていた姿を言葉にして認め、友達とのつながりを感じられるようにする。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ 様々な動きを経験する中で、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
② 自立心	・ 自分で決めた目標に向かって繰り返し取り組み、達成しながら自信をもって運動する。
③ 協同性	・ 同じ運動に取り組む友達に関心をもって、互いに協力して課題を達成する。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ 運動をする場や用具の使い方のルールを考えて守る。また、使った用具の片付けを進んで行う。
⑤ 社会生活との関わり	・ 一緒に頑張っている仲間として、互いに見合ったり、励ましたりしながら、友達とのつながりを感じる。
⑥ 思考力の芽生え	・ 「こんなふうにできるようになりたいな。」「こうしたらどうだろう。」などと、考えを巡らしたり、試したりする。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・ 日差しや風の心地よさを感じて、戸外で体を動かす心地よさを味わう。
⑧ 数量や図形、標識や文字等への関心・感覚	・ なわ跳びの回数を数えたり、雲梯の高さを見たり、鉄棒につかまっている秒数を数える。 ・ 掲示物を見て、目当てとして書かれた文字に触れる。
⑨ 言葉による伝え合い	・ 友達の取組を見て気付いたことを言葉にして伝えたり、上手くいく方法を教え合ったりする。
⑩ 豊かな感性と表現	・ 体を動かす心地よさを味わいながら、自分の課題を達成するうれしさを言葉で表したり、動きに名前を付けたりする。

5歳児Ⅲ期では、いろいろな活動に取り組む中で、自分なりのめあてを意識して、その課題を達成しようとする気持ちが育ってくる。自分の目標に向かって繰り返し取り組む中で、幼児同士の励まし合う姿も見られる。この事例における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」では、特に①、②、⑤、⑨などが顕著に表れている。

小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・ 一日の流れに見通しをもって生活できるように、ホワイトボードに活動の流れを掲示したり、活動の終わりの目安が分かって動けるように、事前に時間を知らせたりしている。
- ・ 活動の準備や片付けは、自分たちで必要なことに気付いて進めていけるように働き掛けたり、進んで動いている姿を認め、表情や言葉で伝えたりしている。

〈人とのかかわり〉


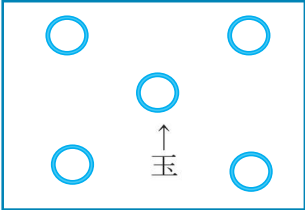
- ・ 友達の姿に目を向け、「友達のよいところ」を伝え合う機会を学級の中で作っている。
- ・ 友達と関わる中で、様々なやり方や考え方があってよいことに気づき、多様性に触れられるように、場や機会を通して学べるようにしていく。

〈学び〉

- ・ うまくいかないことに直面したときに、どうしたらよいかと考えを巡らせたり、友達や保育者と一緒に考えたりして、追求していく面白さを感じられるようにする。

事例6

5歳児	10月上旬	玉集めゲーム！チームでがんばろう！ ～友達と協力して遊びを進める～
活動選択の理由	運動会を月末に控え、みんなで協力して共通の目的に向かって取り組む経験を重ねる中で、その楽しさが分かり意欲的に活動する姿が見られる。ルールのある遊びを通して、チーム意識を高め友達と協力し、意見を出し合いながら遊びを進めていく楽しさを体験してほしいと考えた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールのある遊びを楽しみながら、自分の力を発揮したり、友達のよさに気付いたりする。 ・ 友達と考えを出し合いながら遊びを進めていく。 	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協同(協働)的な活動 言語活動】</p> <p>主・新しい遊びに興味をもって、進んでルールを知ってゲームに参加する。</p> <p>協・同じチームの友達と共通の目的をもってチーム対抗の遊びを楽しむ。</p> <p>言・勝つための作戦についてチームで思ったことを表したり、友達の考えを聞いたりする。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>・新しい遊び「玉集めゲーム」の遊び方について話を聞く。ホワイトボードにある配置図を見ながら動きを確認する。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜遊び方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チーム5名 ・中央の輪にある玉を一人1個ずつ取りに行き、自分のチームの輪に入れる ・タッチをされたら次の人が取りに行く ・自分のチームの輪より前には出ない ・玉が3個そろったら勝ち </div> <p>・担任の話を聞きながらイメージをもち、ガッツポーズをしたり、そばの友達と勝ちたい気持ちを伝え合ったりする。</p> <p>・ゲームを3回戦行い、勝ったチームは喜びを全身で表す。</p> <p>・ゲームを行ってみて感じたこと、思ったことを話す。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチを早くする ・タッチしていない人もいたよ ・早くそろいそうなチームの玉を取ればいい ・取られそうなとき、邪魔していいの？ ・すばやくとる </div>	<p>○新しいゲームのチームは、運動会の競技のチームを生かして、メンバーがすぐに認識できるようにする。</p> <p>★シンプルなルールであるが、視覚的にも分かりやすくするために、ホワイトボードを使い、チームの場所、進む方向等を図示して説明する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>★四隅に各チームのラバーリング(輪)を置き、中央には輪の中に玉を9個置く。</p> <p>○3回戦やってみて感想や、勝ったチームの勝因や自分たちが勝つためにどうしたらよいか等を質問する。</p> <p>○幼児から出た感想や意見を基に整理をし、ルールのある遊びは、みんながルールを守って対戦するから面白いことを確認する。</p> <p>○数回行ってみたいところで、さらにこうすればよいと思う気づきを引き出し、全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチは必ず行う。 ・中央の輪以外でも他のチームの玉を取ってもよいが、取られないように邪魔はしない。 ・玉が3個そろったことを分かりやすくするために、そろった時点でその場(線の上)に全員が座る。

- ・再度ゲームを3回戦行くと、他のチームの玉を取りに行ったり、機敏に動いたりなど、動きに変化が表れる。

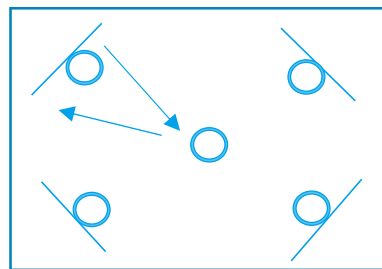


- ・基本のルールを基に、勝つためにはどうしたらよいかをチーム毎に相談する。幼児から、「作戦タイムだね！」と声上がるなど、意欲的な話し合いとなる。



- ・最後のゲーム3回戦を行うと、応援にも熱が入り、チームの一体感が増す。終了後も「もっとやりたい。」と声上がり、遊びがさらに楽しくなるような工夫を伝え合う。

- ★並び方が不ぞろいだと順番が分からなくなるので各チームの輪に沿ってビニールテープで線を引き、距離を保つことと合わせて、公平な環境であることを知らせる。中央に向かって左端の幼児からスタートして玉を置きタッチしたら右端に戻る。



- 線上に並ぶことで全体の様子も見ることができ、応援にも力が入る様子を認め、協力したり応援したりする楽しさが感じられるようにする。
- 話し合いの様子を見ながら意見が出せない幼児には、友達と同じ意見であっても言葉に出すことでチームの一体感を感じられるようにする。



- 3回戦行うち、隣のチームの玉を取ったり、そろったときに言葉を掛け合ってすぐに座ったりなど、チームの作戦を認め、ルールを守って対戦することで面白くなることを共有する。

その後の活動

- ・遊びのルールが共通になり、チーム対抗の楽しさが分かってきたことで、好きな遊びの一つとして、幼児だけで「玉集めしよう」と、進んで取り組む姿が見られるようになった。
- ・5、6名の人数で始め、途中参加の友達がいると、人数の少ないチームを知らせてゲームを続ける。勝敗の結果より、玉を取り合い、たくさん集めることに興味をもって、エンドレスリレーのような楽しみ方をしている。
- ・保育者は、遊びの状況を「実況中継」のように言語化して、側面から遊びを盛り上げるようにした。

- 生活：生活の流れに見通しをもって、自分たちで生活や遊びを進めていく。
- 人とのかわり：共通の目的に向かって、友達とイメージや考えを出し合いながら、協同して遊びを進めていく楽しさを味わう。
- 学び：自分なりの課題に向かって試したり、周囲の人たちの気付きなどを受け入れたりしながら最後まで取り組む。

1 新しい遊びに興味をもって意欲的に取り組むために

ルールを知って、ルールに沿って遊びを楽しめるための工夫

- ・新しい遊びの紹介はポイントを押さえて短時間で済ませる。すぐに活動に取り掛かれるようにして、実際に体を動かして遊びながら、ルールへの理解を深めていけるようにする。
- ・遊びのチーム分けは、運動会の競技のチームと同じにすることで、運動会に向けてチーム意識をさらに高められるようにする。
- ・「玉集めゲーム」の基本的なルールが徹底するように、初めは中央の玉の数を少なくすることで、勝敗がすぐに決着するようにして、ゲームを数回繰り返すことで、競い合う楽しさが感じられるようにする。
- ・勝ちたい気持ちが先行し、並ぶ場所、並び方、タッチの仕方など、ルールが曖昧になってきたときは、その状況を全体に返し、ルールを確認したり、並ぶ場所にスタートの線を引いたりしてルールを守れるようにする。さらに、ルールを守って動いているチームを取り上げて認め、みんなルールを守って遊ぶ楽しさを感じられるようにする。



2 チーム対抗の遊びの楽しさを感じられるようにするために

チームが勝つための話合いを進んで行い、チーム対抗の遊びを一層楽しむための工夫

- ・保育者は幼児と遊び方を確認しながら、遊びのリードを幼児側に移していくようにする。幼児に分かるような勝ち負けの決め方、ゲーム開始の合図など、幼児の出番をつくる。
- ・遊び方についてルールが浸透してきたことを確認しながら、「勝ち」が多いチームの工夫等を引き出し、他のチームも勝つための話合いの必要を感じられるようにする。
- ・「勝つ」という共通の目的に向かって、チームでの話合いができるように、話合いのポイントを具体的に示していく。
- ・話し合ったことが勝敗にどのようなつながったか、遊びの振り返りでチームごとに伝え合う場をもつ。
- ・クラス全体の場で、各チームの話合いの様子や動き方等、そのよさを取り上げて、十分認め、取り組んだことを価値付ける。
- ・繰り返し遊ぶ中で、玉数を増やすこと、「勝ち」の球数等、幼児のアイデアを引き出しながら、遊びがさらに楽しくなるような工夫を幼児と共に進めていく。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ 新しく提示された遊びに興味をもって、意欲的に取り組み、体を十分に動かすことを楽しむ。
② 自立心	・ 自分の出番を意識し諦めずにやり遂げることで達成感を味わい自信をもつ。
③ 協同性	・ チームの勝利のために友達を応援したり、作戦を考え合ったりする。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ ゲームは、ルールを守って行うことが大切であることを理解し、ルールを守って遊ぶことの楽しさを感じる。
⑤ 社会生活との関わり	・ 友達の考えを聞いたり、他のグループの取組を見てよい面を取り入れたりする。
⑥ 思考力の芽生え	・ どうしたら素早く玉を集められるか、「勝ち」の確認の仕方等、考えたり、試したりする。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・ 体を動かし暑くなったところで窓を開け、換気を通して風の心地よさを全身で感じる。
⑧ 数量や図形、標識や文字等への関心・感覚	・ 図の表示を見てゲームのルールを理解する。 ・ 玉の数を数えたり必要な数を考えたりする。
⑨ 言葉による伝え合い	・ 気付いたことを言葉にして伝えたり、友達の考えを聞いたりし、上手くいく方法を伝え合う。
⑩ 豊かな感性と表現	・ ゲームに勝つためにチームで協力したり、結果を喜んだり悔しがったりと気持ちを言葉や動きで表す。

小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・ 「朝の会」で、1日の大まかな流れを理解し見通しをもって生活を進めることができるようにしている。
- ・ 使用した遊具や用具は、片付け方の表示をして、分かりやすく知らせ、自分たちで片付けたり整理したりできるようにする。

〈人とのかかわり〉


- ・ 自分の思いを伝えたり、相手の思いを感じ取れるように、相手の表情や動きに気付かせ、思いを言葉にして伝えたり、思いを聞くように援助したりしていく。
- ・ 幼児同士のトラブルについては場を変えることで気持ちが落ち着くように「ピーステーブル」を設置し、互いの気持ちを伝えたり相手の思いに寄り添ったりできるように環境を整える。

〈学び〉

- ・ 自分なりの目的に向けて遊びのイメージが広がるように、考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したりできるように遊具や材料、時間を十分に保障する。
- ・ チームとしての目的に向かっていく経験を重ね、友達と一緒に考えたり、言葉で伝え合ったりできる場や機会を多く作るようにする。

事例7

5歳児	11月下旬	『3びきの〇〇』の紙芝居を作ろう！ ～共通の目的に向かって、 グループで活動を進める楽しさを味わうために～
活動選択の理由	<p>運動会の行事を通して、共通の目的に向かってクラスで取り組む楽しさを感じることができた。運動会以降、幼児同士のつながりが深まり、思いを出し合っただり、話し合ったりする姿が見られるようになった。また、この時期、文字や数などへの興味、関心が高まり、遊びの中に取り入れる姿も見受けられる。</p> <p>そこで、グループの友達と紙芝居の製作活動を行う中で、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、グループの表現が「紙芝居」という形になる楽しさを味わえるようにしたいと考えた。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の目的に向かって、自分の役割が分かり、力を発揮して、グループの紙芝居を作り上げることを楽しむ。 ・ イメージや考えを出し合う中で、友達の考えを聞いたり、自分の思いを伝えたりして聞いてもらえるうれしさを味わう。 	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協協同(協働)的な活動 言言語活動】</p> <p>主・ 共通の目的に向かって、自分の役割が分かって担当の場面の描画を楽しむ。</p> <p>協・ グループの中で、紙芝居の場面に分かれて一つの紙芝居を作り上げることを楽しむ。</p> <p>言・ グループで紙芝居の登場人物について互いに考えを言い合ったり、聞き合ったりする。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>【前日までの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者が製作した紙芝居「3びきのこぶた」を見る（保育者が原作をアレンジしたもの）。 ・ 係を決める（どのページを作るか）。 ・ グループごとに物語の登場人物を決める。 <p>【当日の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに集まり、自分たちで作る紙芝居についての話を聞く。 ・ グループごとに話し合いながら物語を作る。 ・ 決まった内容にそって、役割に応じて紙面の空欄に単語の文字を書く。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>・ グループで決めた物語に沿って、台紙に絵を描く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動のイメージがもてるよう、保育者が製作したものを読み聞かせする。 ★ 創作の基になる話は、よく知っている物語を活用して、登場人物や繰り返しの話の展開による結末を考え合えるようにする。 ★ 幼児全員が主体的に取り組めるように、グループの構成を3～4名にする。互いに見合うことができ、話し合えるようにテーブルに集まり、落ち着いて取り組めるようにする。 ○ 保育者が製作した紙芝居を基に、登場人物、家の種類、最後の結末など、何を決めるか、話合いのポイントを分かりやすく伝える。 ○ グループで決まったことを紙芝居の文字面に書いていくように知らせる。 ★ 文字面には、あらかじめ筋書きを書いておき、幼児が単語のみで話を作ることができるようにする。 ★ 幼児が使い慣れている画用紙(A4判)や鉛筆、クレヨンを用いて製作を行う。



- ・知らない文字があるとグループ内の書ける友達に書いてもらう。
- ・「この動物は何色がいいかな?」「これはどう?」とグループで話し合いながらイメージや考えを出し合う。

- ・完成したグループが前に出て、発表をする。



- ・友達のグループが作った紙芝居の登場人物や家の種類などに興味をもって見たり、聞いたりする。

○グループの話合いを見守り、一人の幼児の意見だけで決まることがないように、また、全員で納得して取り組めるように、決まったことを確認したり、認めたりしていく。

○グループの中で、意見の食い違いから話が進まないときは、保育者が橋渡しをしながら見守る。

○折り合いの内容を受け止め、考えを譲った幼児、譲られた幼児の双方が満足感を得られるようにする。

★ひらがな表を貼ったり、担任が黒板に書いた文字をまねたり、興味をもって取り組めるような環境を整える。

○様々な考えやイメージを認め、幼児同士が意見を受け止め、共感できるようにすることで、話し合いの楽しさを感じられるようにする。

○進捗の状況を捉え、活動が進んでいるグループを取り上げて、他のグループへの刺激になるようにする。

○活動が進む様子を励まし、完成まで友達と協力しながら楽しく取り組めるように援助する。



○各グループの紙芝居を見て、友達のイメージの面白さ、楽しさが感じられるようにする。

○活動の振り返りでは、友達と協力して取り組んだことを認め、最後までやり遂げた達成感が味わえるような言葉掛けをする。

その後の活動

- ・完成したグループが前で発表したことで、「続きをしたい!」「他のグループの紙芝居も見たい。」と思いを表していた。全てのグループが完成できるように十分な時間を確保し、紙芝居製作に取り組めるようにした上で、クラスで発表し合った。
- ・同じ話を土台にしてもグループによって登場する生き物や家の材料、また話の結末が異なることを面白がる様子が見られた。それぞれのグループの工夫している点、物語の面白いところなど、感想を伝え合うようにした。

- 生活：生活の流れに見通しをもって、自分たちで生活や遊びを進めていく。
- 人とのかかわり：共通の目的に向かって、友達とイメージや考えを出し合いながら、協同して遊びを進めていく楽しさを味わう。
- 学び：自分なりの課題に向かって試したり、周囲の人たちの気付きなどを受け入れたりしながら最後まで取り組む。

1 グループで活動に取り組む楽しさを感じるために

共通の目的に向かって、自分の力を発揮できるための工夫

- ・ 幼児が自分の役割が意識できるように、まず、グループの目的を共有し、活動の内容について丁寧に分かりやすく伝えるようにする。ここでは、幼児が自分の担当する紙面を手にして、何を書き込んだり、描き表したりすればよいのか、イメージをもてるように伝えていく。
- ・ 一人一人の幼児が担当する紙面が集まることでグループの紙芝居ができていくことを知らせ、一人一人の取組の意義付けを行うとともに、完成のうれしさをイメージしながら期待感をもって取り組めるようにする。
- ・ 個の力の発揮については、グループの活動の進捗による。したがって、保育者はグループの活動の状況をしっかりと捉え、停滞しているグループについては、話合いのポイントなどを整理する。また、他のグループの取り組み方を知らせ、活動を進めるヒントになるように働き掛ける。
- ・ 各グループの様子を確かめながら、個々の幼児が自分の役割に沿って取り組んでいる姿を取り上げ、グループ内で互いに友達を認め合えるようにする。



2 互いにイメージや考えを伝え合う楽しさを感じるために

自分の思いを表し、受け入れてもらえるうれしさを感じられるための工夫

- ・ 一人一人が思いや考えを表せているか、表した内容がグループ内に伝わっているかを捉えていく。また、幼児の考えを認め、自分のイメージや考えを話しやすい雰囲気を作り、幼児が進んで自分の思いを表そうとする気持ちを引き出す。
- ・ グループ内で考えがまとまらないときは、出ている考えを整理し、それぞれの内容について話し合えるようにする。相手の考えに沿う姿が見られたときは、それでよいか確認し、折り合いを付けられたことを認めたり、考えを受け入れてもらえたうれしさに共感したりする。
- ・ 幼児同士が考えを出し合い、聞き合う楽しさを感じられるように、話合いの過程を見守り、考えの伝え方、友達の考えの聞き方について、具体的に認める言葉を掛け、話し合うことの楽しさを支えていく。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ 保育者の作成した紙芝居を見ながら、想像を膨らませ、活動に見通しをもつ。
② 自立心	・ 活動の内容が分かり、グループの一員としての役割に沿って活動する。
③ 協同性	・ 話合いの中で、考えをまとめながら、グループみんなで取り組む達成感を味わう。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ 自分の役割を意識して、グループの目的に向かって、自分の力を発揮して取り組む。
⑤ 社会生活との関わり	・ 友達の考えを聞いたり、他のグループの取組に関心をもったりしながら、よいところを受け止める。
⑥ 思考力の芽生え	・ 家の材料として、弱い、強いなどへの関心をもつ。 ・ どのようにしたら話が面白くなるかを考える。
⑧ 数量や図形・標識や文字等への関心・感覚	・ 文字に興味や関心をもって、読んだり、書いたりする。 ・ 紙芝居の紙面の順番について、数字を使って分かってもらう。
⑨ 言葉による伝え合い	・ グループの話合いの中で、自分の考えを言葉にして伝えたり、友達の考えを聞いたりして、お話作りをする。
⑩ 豊かな感性と表現	・ グループで決まったことを基に、自分や友達の考えを絵に描いて表現する。

グループで紙芝居を作る活動では、グループ内での自分の役割を知ること、また、グループでどのような紙芝居にするかを話し合うこと、話合いの結果を踏まえて文字や絵の紙面を作ることなど、いくつかの課題があったが、運動会に取り組んで得られた経験を基に、グループの友達と一緒に活動する楽しさを感じられる時期である。この活動では、特に③、⑤、⑧、⑨に具体的な姿が現れている。

小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・ 見通しをもって生活ができるように、活動の始まりや片付けの時刻などについて話をし、活動中には言葉を掛けるなど、時計の針を見て行動する習慣が身に付くようにする。
- ・ 1週間という期間で園生活の見通しがもてるように、黒板に予定を書き込んだり、カレンダーを掲示したりして、カレンダーの見方にも関心をもって、先の行事や活動に期待をもてるようにする。

〈人とのかかわり〉




- ・ 自分の思いだけでなく、友達の話も聞き入れながら、助け合ったり、譲り合ったりできるようにする。
- ・ クラスやグループで協力して取り組む活動を取り入れ、共通の目標に向かってみんなでやり遂げた達成感を味わったり、仲間意識を高めたりすることができるようにする。

〈学 び〉

- ・ 困ったことがあったら、どうしたらいいのかを考え、周りに助けを求めたり、一緒に考えながら、自分の力で解決したりすることができるようにする。
- ・ 一人一人が、様々なことに挑戦している姿を認め、活動に自信をもって取り組めるようにする。

事例8

5歳児	2月中旬	もうすぐ1年生 ワクワク！ドキドキ！ ～自分や友達によさを知り、成長を喜び合う～
活動選択の理由	4月に向けて、小学校入学への期待が高まってくると同時に、未知の環境への不安を感じる姿も見られる。「もうすぐ卒園」と、これまでの園生活を振り返る機会が増える中、一人一人の幼児ができるようになったこと、頑張ったことなどを伝え合いながら、互いに成長を感じ、自信をもてるようにしていきたいと考えた。卒園式に向けて、自分のよさや得意なことなどを話題にしながら、成長を喜び合い、入学への期待を高める機会をもちたいと考えた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活を振り返り、自分や友達の頑張ったことやよさを出し合い、認め合う中で、自信や成長感を高める。 ・ 卒園式のイメージを共有し、式の中で自分が伝えたいことを表したり、友達の思いを受け止めたりして、式への期待を高める。 	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協協同(協働)的な活動 言語活動】</p> <p>主・卒園式のイメージを共有し、自分の成長を感じながら進んで活動に参加する。</p> <p>協・卒園式を楽しみにしながら、自分や友達の順番を知って力を合わせようとする。</p> <p>言・これまでを振り返って成長を感じ、友達とこれからの希望について伝え合う。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>・今までの園生活を振り返る。</p> <p>・できるようになったこと、頑張れるようになったことについて話す(製作面ではさみの使い方、描画の表し方、当番活動)。</p>  <p>・2人組になる。</p> <p>・「大きくなったら」「学校に行ったら」などについて伝え合う。</p> 	<p>★年長になってからの作品(製作や描画など)や写真などの視覚的な環境を用意する。</p> <p>○幼児が進んで話したいと思えるような雰囲気づくりを心掛ける。</p> <p>★幼児同士で2人組になり、話しやすいように椅子を向かい合わせにして座るようにする。</p> <p>★話が聞こえやすいように、2人組同士の間隔に配慮する。</p> <p>○リラックスして自分の思いを伝えることができるよう見守る。</p> <p>○幼児が話し合っている姿を受け止める。</p> <p>○自分の思いを伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりする楽しさを支える。</p> <p>○話が進まない2人組には言葉を補ったり、話を整理したりして、言葉に表せるようにする。</p> 

- ・2人組で話し合ったことや互いに聞き合ったことをみんなの前で紹介し合う。
- ・紹介する前に互い話の内容を確認し合う。



- ・卒園式では、一人一人が「大きくなったら」「学校に行ったら」について話すことについて話を聞く。

- 発表したいペアから順番に前に出てくるようにする。
- 友達が自分のことを紹介してくれることへのうれしい気持ちを引き出したり、みんなに話を聞いてもらえるうれしさに共感したりする。
- 発表しようとする気持ちを尊重し、話し始めるまでの期待感を表しながら待つようにする。
- それぞれのペアのよかったところを認めたり、話を聞いている幼児に感想を聞いたりしてクラス全体が話し合いを楽しめるようにする。
- 発表したことに共感したり、価値付けたりしながら、一人一人が自信をもてるようにする。
- ★幼児の発表を聞く際には、話をする幼児の視線が前に向いて、クラス全体で内容が共有できるように、保育者は聞く側の幼児の中に入って、発表する幼児に向き合えるようにする。

- 話し合いがとても上手であったことを認め、卒園式で将来の夢を発表する場面でも上手に言えることを話し、自信につなげる。
- 園生活を振り返る中で、様々な人たちにお世話になったことへの気付きを引き出し、感謝の気持ちをもてるようにする。

その後の活動

- ・活動後には、幼児同士で友達が発表した将来の夢について、自分の夢を重ねて思い描いた場面を話す姿が見られた。サッカー選手になりたい幼児は、「サッカーの練習が終わったら、Aちゃんのお店のラーメン食べに行くね。帰りにBちゃんのお花屋さんで花も買うね！」などと会話が広がり、幼児期を共に過ごした仲間の強いつながりが見られた。
- ・2人組で話をして、相手のことを発表する経験を重ねることで、話を聞いてもらい、自分のことを語ってもらいうれしい気持ちが高まり、発表の場では自信をもって行う姿が増えてきた。
- ・絵本棚に就学に関連した内容が書かれた絵本を置き、幼児と一緒に見る機会を設けた。
 - ※『おおきくなるっていうことは』 文：中川ひろたか 絵：村上康成 <童心社>
 - 『おおきくなったらなりたいな』 作：かこさとし <ポプラ社>
 - 『一年生になるんだもん』 文：角野栄子 絵：大島妙子 <童心社>
- ・翌日の卒園式の練習では、将来の夢を発表する場面で、前回よりも堂々と発表する姿が見られた。

生活：就学への期待をもち、自分から周囲の状況を判断しながら、見通しをもって生活を進めていく。

人とのかかわり：友達のよさを認め合ったり、つながりを深めたりしながら、遊びを進めていく。

学び：課題に主体的に取り組み、乗り越えた満足感を味わい、成長の喜びを感じる。

1 友達と話す楽しさが感じられるように

自分の話を聞いてもらったり、話してもらったりするうれしさを感じられるための工夫

- ・ 2人組になってどのようなことについて話すのか、話し合う内容について分かりやすく伝える。椅子を向かい合わせにして、顔を見合って話せるようにする。
- ・ 話合いの様子を見守り、保育者は聞き手側に回って相手の話を共に耳を傾けて、話し手の幼児が話しやすいような雰囲気をつくる。また、聞いた内容を聞き手の幼児と共感しながら理解できるようにする。
- ・ 発表の場面では、発表したいペアが伝えやすいように、話し出すまでに時間がかかっても期待を込めて待つ姿を示す。
- ・ 伝えられた内容についてクラスで共有する中で、共通することを引き出したり、さらに聞いてみたいことを取り上げたりして、話し手側と聞き手側の幼児との間に応答性のある関係を作っていくようにする。
- ・ 友達が自分の話を聞いてくれた、みんなに発表してくれた、みんなも聞いて分かってくれたなどの多くの喜びをクラス全体で共有する。
- ・ 発表場面でのペアごとのよさや特長をその都度全体に返し、クラス全体で発表がよりよいものになるように働き掛ける。



2 卒園式や小学校入学に期待がもてるようにするために

一人一人の自信につながるようにするための工夫

- ・ クラスで昨年度の卒園式を取り上げる。ビデオ、写真などがあれば、それらを活用する。式の中で一人一人の幼児がみんなの前で自分のことを発表する場面について思い出すようにして、自分たちの式への見通しがもてるようにする。
- ・ 園生活を振り返る中で、年長になり、お兄さんやお姉さんになったなど感じることを問い掛ける。答えが出にくいときは、遊びや活動の場面、当番活動、友達との関わり方など、具体的な場面をヒントにして、幼児の発言を促す。幼児の言葉に大いに賛同したり、共感したりしながら、幼児の成長感を支え、自信へとつなげていく。
- ・ 幼児の成長の姿を保育者自身の喜びとして伝え、保育者と幼児とで自分たちの卒園式に向かって共に作り上げていく気持ちを高める。

本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ 自分から進んで話合いに参加したり、発表したりしようとする。
② 自立心	・ 自分の思いや考えを進んで表す。 ・ 友達の思いや考えを紹介する。
③ 協同性	・ 友達と一緒に互いの思いや考えなどを受け止め、受け止めたことをクラス全体の場で報告する。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ 友達が話しているときは、相手の話に耳を傾けようとする。 ・ 聞くときの姿勢に気を付けて集中して聞く。
⑤ 社会生活との関わり	・ 家族に見守られ、成長してきたことを感じる。 ・ 小学校での生活や、成長した先の夢に思いを向ける。
⑥ 思考力の芽生え	・ 「大きくなったら〇〇になりたいな。」「小学校に行ったら〇〇を頑張りたい。」と考えたり、友達の考えに触れたりする。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・ 幼児なりに自分の成長を感じ、自分を大切にしようとする気持ちをもつ。
⑧ 数量や図形、標識や文字等への関心・感覚	・ カレンダーを見て行事や卒園式までの日数を数えたり、掲示物の文字に触れたりする。
⑨ 言葉による伝え合い	・ 保育者や友達と自分の思いや相手の考えを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉での伝え合いを楽しむ。
⑩ 豊かな感性と表現	・ 友達の発表を聞いて感じたことをイメージして、相手に質問をしたり、やりとりを楽しんだりする。

小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・ 1日の流れや1週間のスケジュールをホワイトボードに記入して知らせ、見通しをもって生活できるようにしている。また、時計を使用して次の活動の目安時間をあらかじめ知らせることで、時間を意識して自分から行動できるようにしている。

〈人とのかかわり〉

- ・ 遊びの中では、幼児同士でどのようにしたら楽しく遊べるか、どのようなルールにするかなどのお話合いができるようにしている。また、自分と違った意見が出たときに自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたり、自分の気持ちに折り合いがつけられるように援助している。
- ・ 幼児同士の関わりの中で、対立しているような場面では、すぐに保育者が間に入るのではなく、他児の考えを引き出したり、以前の経験を思い出させたりして、解決に向けてのヒントを提示する。解決できたことを共に喜び、クラスにとっての経験値としていく。

〈学び〉

- ・ 幼児がやってみようと思ったことや、興味を示したことは実現できるように活動の計画を立てたり、いろいろな素材や図鑑などを準備したりしている。
- ・ 疑問に思ったことに対して、すぐに答えを知らせるのではなく、予想したり、工夫したり、考えたりできるような関わりや環境を設定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には「⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」があり、それは「遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要性に基づきこれを活用し、興味や関心、感覚をもつようにする」と示されています。

文字に関しては、幼稚園教育要領「言葉」の領域、「内容」に「(10)日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう」とあります。また、保育所保育指針解説では、「幼児期に大切にしたいことは、習熟の指導に努めるのではなく、子どもが興味や関心を十分に広げ、数量や文字に関わる感覚を豊かにできるようにすることである」と示されています。幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説にも「数量や文字などに関しては、日常生活の中で園児自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること」と記載されています。

園生活における文字環境を構成するには、以下の点について留意するようにしましょう。

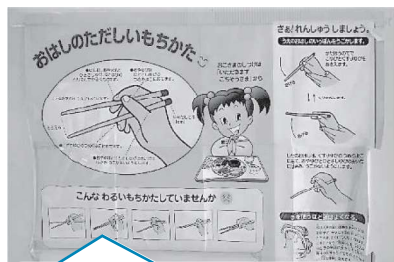
(1) 文字は絵や写真とともに、くっきり、はっきりと

幼児が大好きな給食のメニュー（大きく丁寧な文字）や調理師からの写真付きのメッセージなど幼児の目線に合わせて掲示してあります。



りょうてで
おさらをもって、
やさしくいちまい
ずつ いられてね。

(2) 文字の量を配慮し、文字より絵を多く用いる



箸の使い方はイラストと一緒に記されていることで興味をもちます。

「カレンダーマーチ」の歌の指導では、多くの絵を用いて、歌詞を分かりやすく伝えています。



(3) 遊びの中で使う



文字に触れる環境を構成し、自然に絵本や手紙ごっこを楽しむことで、文字に親しむことができます。一方、幼児の個人差をしっかりと捉えて保育を進めることが大切です。

文字を使いこなすことではなく、文字で具体的なことを感じ取ったり、伝え合えたりできる環境づくりが重要です。